



上越市立稲田小学校

稲田小だより

令和 6 年度 No. 3

令和 6 年 6 月号

◎ありがとうございました

校長 遠藤 和英

6月15日のスポーツフェスティバルには、たくさんの保護者の方、地域の方からご来校いただき、子どもたちに温かなご声援をいただきありがとうございました。子どもたちの様子は、皆様の目にどのように映ったでしょうか。

全校での練習は、全校大玉送りの練習も含めて3時間。それにしても、大きな混乱もなく進行したと感じます。それを可能にしてくれたのは、体育主任の綿密な計画と、それに応えた職員の力、そして何より先を考えてリードしていく6年生の力でした。そのため全体的にスムーズに進むとともに、全校の子どもたちが競技に集中することができました。

1年生の50m走に始まり、6年生のスピードに乗った80m走まで、子どもたちは持っている力を出し切っていました。団体種目でも、楽しそうに踊り紅白玉を投げる姿、作戦を考え綱を引く姿、スピードを落とさないバトンパスを工夫する姿が見られました。応援でリーダーを支えながら懸命に声を張り上げる姿も美しかったです。場面場面で、子どもたちの本気の姿に触れることができ、本人たちも充実感を得ることができたでしょうし、見ている人も感動するスポーツフェスティバルになったと感じています。

それにしても、当日はとても暑い日でした。この暑い中で、どうやったら熱中症を防ぎ、子どもが本気を出す環境を整えることができるかは、私たち職員に課せられた課題でした。その結果として、当日は種目間の時間を考え、子どもたちに涼しい場所で可能な限り休息の時間をとること、外にいる時間を短くするために、予定時間を待たずに競技を進めるとともに地域種目を中止することとさせていただきました。おかげさまで、暑さで体調を崩す子どもはほとんど出ず、熱中症症状を訴えた子どももいませんでした。しかし、ひょっとしたら子どもの活躍を見るために予定時間にグラウンドに行ってみたら、すでに競技が終わっていた…などということがあったかもしれません。急遽予定を変更することとなり、ご迷惑をおかけしました。

今回のスポーツフェスティバルのような行事は、多くの方々のご協力で成り立っています。今回は、まず、子どもたちの健康管理に配慮してくださった保護者の皆様、温かい応援をしてくださった地域の皆様に感謝いたします。また、当日、たくさんの保護者の方から、子どもたちの短距離走のタイム計測や道具の準備・片付け等の運営面で支えていただきました。事前に、グラウンドの環境整備にご尽力くださった保護者ボランティアの方々にも感謝いたします。子どもたちを支え、学校職員を助けていただき、ありがとうございました。

◎児童玄関前のミスト

スポーツフェスティバル後の最初の晴れた朝、登校してきた子どもたちを迎えたのは、保護者の方が玄関前に設置してくださったミスト。暑い中、歩いてきた子どもたちを一瞬の涼しい霧が迎えます。子どもたちの顔も一瞬で笑顔に…。正直なもので、この日の玄関での朝のあいさつは、いつもより一段階大きな明るい声となりました。ありがとうございました。今後も活用させていただきます。

◎どうやって褒めたら・・・

以前に、ある研修会で、「子どもたちは褒めると伸びるのは何となく分かるのですが、具体的にどんなふうに褒めるといいのか分かりません。褒め方について話をしてください。」と言われたことがありました。確かに、子どもたちの様子を見てみると、叱らなければならないことはすぐに目につくのに、褒めることはなかなか目につかないものです。褒めることは意外と難しいと思います。

最も基本的な褒め方は、今できていることを褒めることです。例えば元気のよい挨拶をしている子に、「気持ちのいい挨拶だね。」と言うことです。でも、実際にやってみようすると、「今、できていること」を見つけるのさえ難しいことがあります。また、「できていないことをできるようにしたいのだから、褒めることはできない」という考えもあります。上手に褒めることは、本当に難しいです。

そんなときにお勧めの方法は、「まだ、できていないことでも褒める」ことだそうです。たとえば、「〇〇は優しい子ね」「〇〇はゲームの時間をきちんと守れる子ね」・・・などという具合です。今は、できていなくてもいいから、どんどん褒める。言い換えると「できる前から勲章を与える」「よいレッテルを貼る」ということです。不思議とこの方法で、子どもは徐々に変わっていきます。人間は、自分についてよい評価が与えられると、その評価を裏切らない行動をとるようになっていくものです。だから、まだできていないことでも、どんどん褒めてください。「よく頑張っているね」「きっとたくさん漢字が書けるようになるよ」・・・もし「そんなことないよ!」と子どもに言われても「私はそう思っている」と信じて言うてください。

また、子どもに直接は言いにくいという場合もあるかもしれません。そんなときは、他の人の前で褒めるとよいそうです。子どもに聞こえるように、先生の前で、あるいは家族の前で褒めてみてください。それを聞いた子どもは、「そんなふうに見ていてくれたんだ」と意気に感じ、きっと期待を裏切らない行動をとるようになります。

人間にとって褒められることは快感です。だから、また快感を得たいという動機から、同じ行動をとるようになります。そして、それを繰り返すことで、再度快感を得ようと、「もっともっと」と同じ行動がしたくなります。短期的には子どもを叱る方が目に見えた効果が得られるかもしれませんが、しかし、長い目で見ると、時間はかかりますが褒める方が子どものやる気を呼び起こし、自主的な行動を促すことができます。褒めることは、子どもを成長させるために大切だと思います。

まだ成長の途上である子どもの「できていることを褒める」ことは、結構難しいかもしれません。でも、「まだ、できていないことでも褒める」「他の人の前でも褒める」ことなら、できそうではありませんか。私も学校で、きっと効果があることを信じて取り組んでいます。子どもを自然に、そしてあたり前に褒められると素敵ですよ。

稲田小学校ABCD

A:あたり前のことを

B:ばかりにしないで

C:ちゃんとできる人が

D:できる人(すごい人)